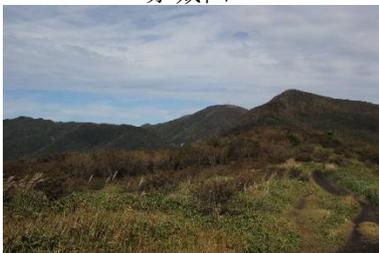


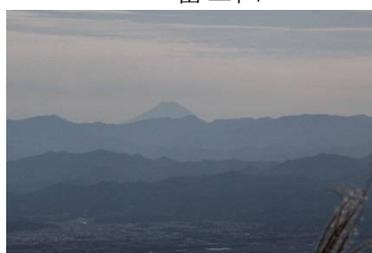
仙人通信 131 荒山(1571 m)・鍋割山(1332 m)

荒山・鍋割山は赤城山塊の南面に、地藏岳から前橋方面へと連なる山体である。赤城神社の大きな赤鳥居を潜り、県道4号線の姫百合駐車場に車を置き、荒山高原から両山へピストンする事とした。姫百合駐車場では、真っ赤に熟れたナナカマド・アザミ・白いサラシナショウマ・黄色いアキギリが秋を演出してくれていた。林道を挟んだ杉林の中にある丸太の階段からの登山開始である。白いミヤマヨメナ・黄色いコウガギクが登山道を飾る静かなコースである。30分程歩くと道標があり、四季の散歩コースの林道との分岐となる。程なく両側にトラロープの張られた涸れ沢の近くのコースとなる。足元の紫蘇岩石の上を確認しながら登るコースだ。周囲は杉林から白樺や水楡の落葉樹帯へと変わる。苔に覆われた荒山風穴を過ぎると稜線が覗え、15分程で身の丈程の躑躅に覆われた明るい荒山高原である。左上の荒山の山頂を目指す。足元を覆う膝丈程の都笹の中の登山道は急坂であるも歩き易いようだ。赤紫の小さな花をリング状に着けたヤマラッキョウが笹の上に咲き、シラビソの根本では、紫のトリカブトやリンドウそして黄色いニガナも可愛い。更に登ると赤い1cm程のヤマボウシの実も熟れて落ちており、秋の真ただ中だ。40分程で平地に出て小休止して見渡すと、かつて登った鳴神山・関東平野を始め武蔵丘陵まで一望でき、最高である。やがてロープの張られた急な岩の登りが続き、20分程で祠が祀られた三等三角点の荒山山頂である。山頂は木々に覆われ、決して褒められた眺望ではない。北西に大きな露岩を見つけ登ると、榛名の山から嘗て登った稲包山・平標山・三国山等の上越国境の山が、手前には大峰・子持・十二ヶ岳・高田等の山波である。登った思い出を回想するのも悪い物ではない。休憩後、南に延びる尾根を20分位下ると大洞の道標のある、『関東ふれあい』の道となる。黄色いキンミズヒキや白いニガナが笹の中に顔を出す。白樺も加わりプロムナードのコースである。コガラも目の前で囀る。更に10分程で最初の避難小屋、更に10分程で下の避難小屋、芝の広場の十字路を通過。ちょうど2時間で荒山高原に戻る事ができた。躑躅の中を鍋割山に向かう。一輪のオレンジ色の花を付けたヤマツツジが「私見て・！」とばかりだ。尾根道横では、赤いメギ・マユミ・ニシキギ・ヤマボウシそしてアケビも実を付けて、秋を奏でる。足元では、コアジサイそして紫のリンドウ・トリカブトが綺麗だ。20分程で最初のピークの火起山だ。振り返ると、先ほど登った荒山・アンテナが山頂に立つ地藏岳・その横に山頂を見せる黒檜そして鈴ヶ岳と嘗て登った赤城の山が見事である。10分もせず次のピークの竈山である。**火起・竈・と鍋割**と名前が楽しい。尾根の北側は林が続き望めないも、南面は赤城の扇状地であり文句の付けようもない大パノラマだ。高原から35分程で鍋割の山頂に着く。かわいいお地藏さまの横には三角点があり、確認すると二等とある。真西には浅間の山頂が頭を出し、武蔵丘陵や秩父連山の後ろには、富士山までもが望めた。台風から変わった爆弾低気圧が近づいているが、穏やかな天候にも恵まれ、のんびりと荒山高原経由で、駐車場に戻る4時間40分(23000歩)の山旅が楽しめました。(h25. 9. 30)

赤城山



富士山



トリカブト

